

NAGASE



2011年(平成23年)3月期 第2四半期決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

2010年11月16日

◆ 目 次 ◆

- * 2011年3月期第2四半期の決算概況
- * 2011年3月期業績見通し
および中期経営計画「*CHANGE* 11」進捗
- * 酵素事業について

2011年3月期 第2四半期の決算概況

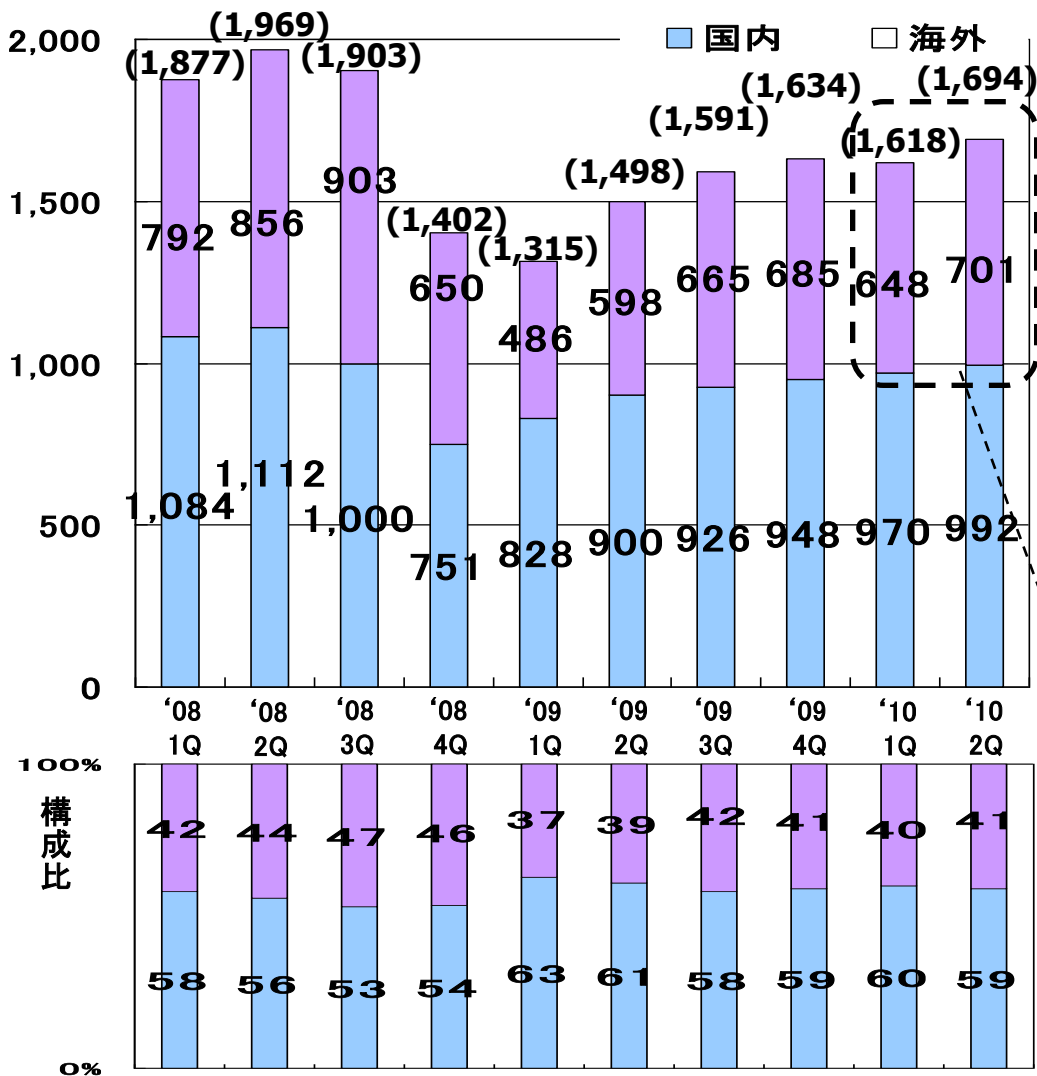
国内・海外ともに業績回復し、営業利益倍増

(単位:億円)

	10/09	09/09	増減	前年同期比
売上高	3,313	2,813	+499	118%
国内販売	1,963	1,728	+234	114%
海外販売	1,349	1,084	+264	124%
売上総利益 (利益率)	370 (11.2%)	305 (10.9%)	+64	121%
販売管理費	▲264	▲253	+11	105%
営業利益	105	52	+52	200%
経常利益	113	57	+55	196%
純利益	68	30	+37	221%

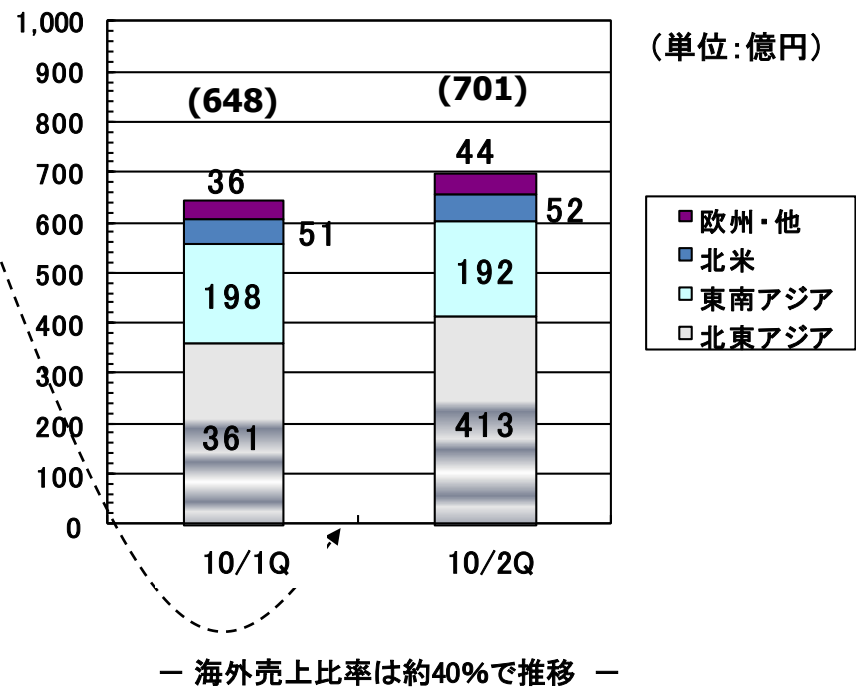
売上高3,313億円 前年同期比499億円増加
うち国内売上234億円増 海外売上264億円増

(単位:億円)

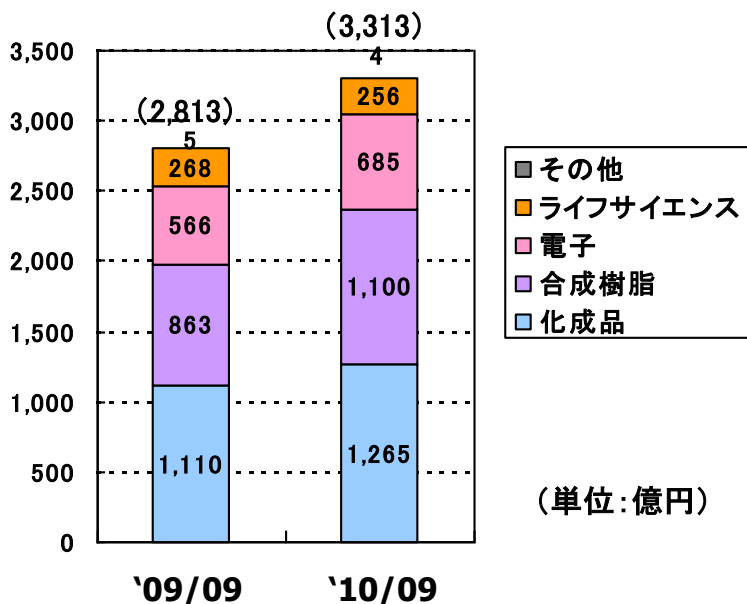


金融危機による世界同時不況以降、回復基調が続く
海外は、為替変動の影響大きい

海外売上の地域別内訳

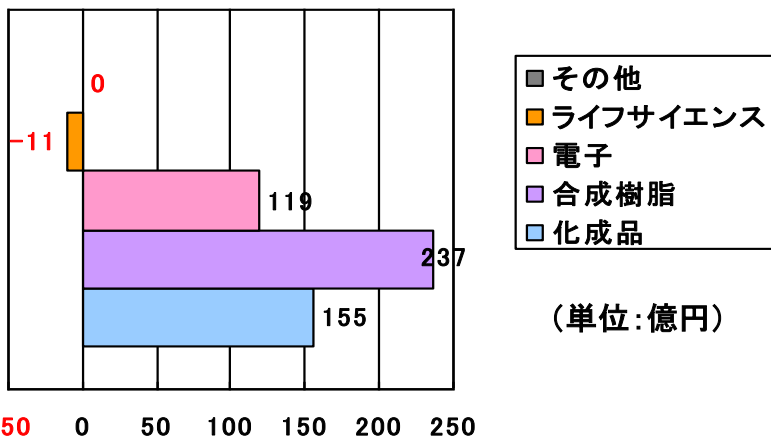


セグメント別の売上概況 (前年同期比較)



(単位: 億円)

売上高のセグメント別増減内訳



(単位: 億円)

化成成品 + 155億円 (114%)

■化成成品業界全体で需要が増加し、全ての事業部で売上増加

合成樹脂 + 237億円 (128%)

■海外のすべての地域で売上増加

■国内は、OA・家電関連用途、自動車関連用途が増加

■機能性フィルムシート、シート成型品関連用途は減少

電子 + 119億円 (121%)

■ディスプレイ関連の売上が新規商材の伸長もあり大幅増加

■精密研磨剤関連、液晶・半導体製造用薬液も需要好調により増加

■変性エポキシ樹脂関連も、自動車関連の復調、

携帯電話向けの需要好調により大幅増加

ライフサイエンス ▲11億円 (96%)

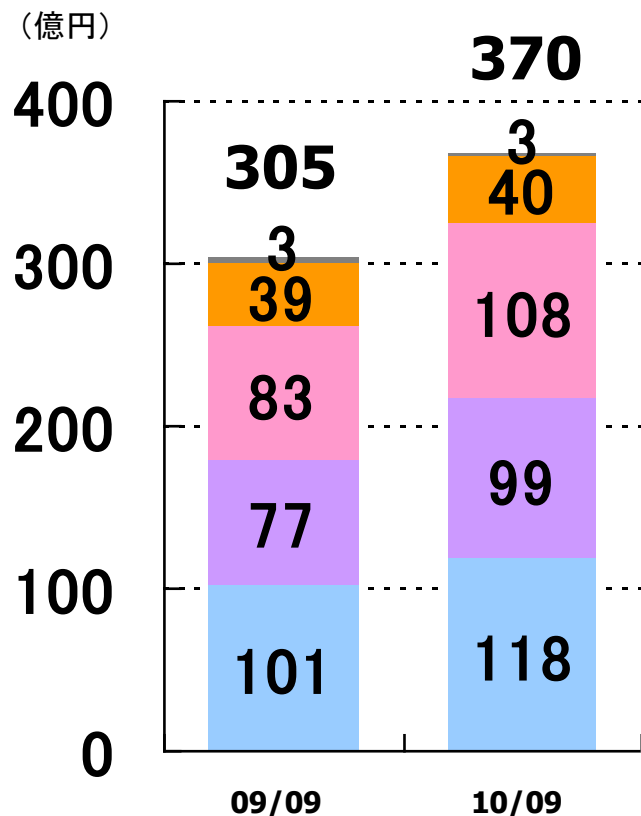
■化粧品・健康食品は新製品が好調も

既存商品の落ち込みをカバーできず微減

■ファインケミカル事業は、酵素事業の売上伸長や、医薬事業

で新規受託案件の実績化があったものの、全体では売上微減

370億円 64億円増加 前年同期比 121%



セグメント別
売上総利益概況 (前年同期比)

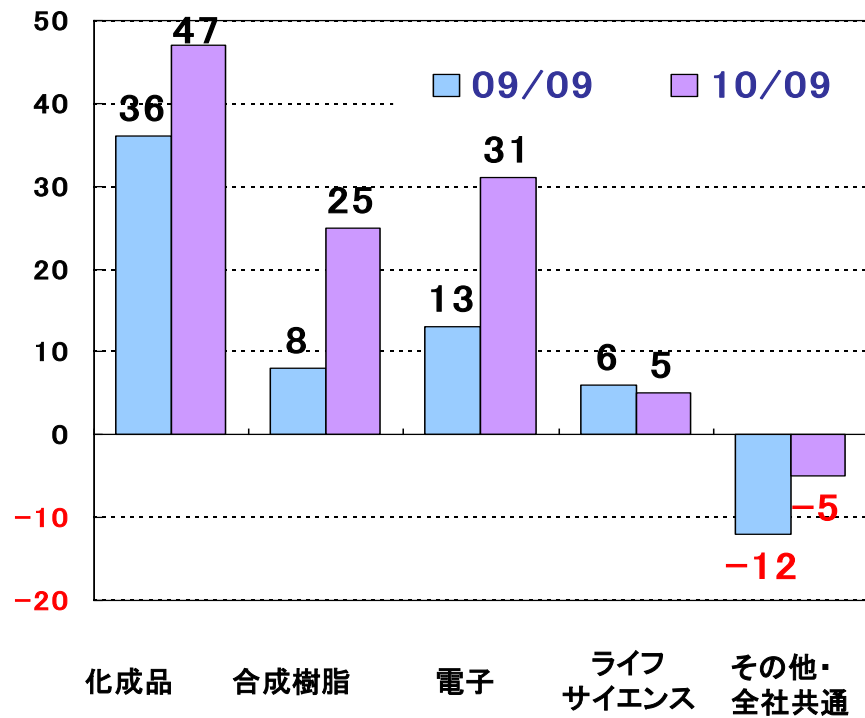
化粧品	+ 17億円 (117%)
合成樹脂	+ 21億円 (127%)
電子	+ 24億円 (130%)
ライフサイエンス	+ 1億円 (103%)



105億円 52億円増加 前年同期比200%

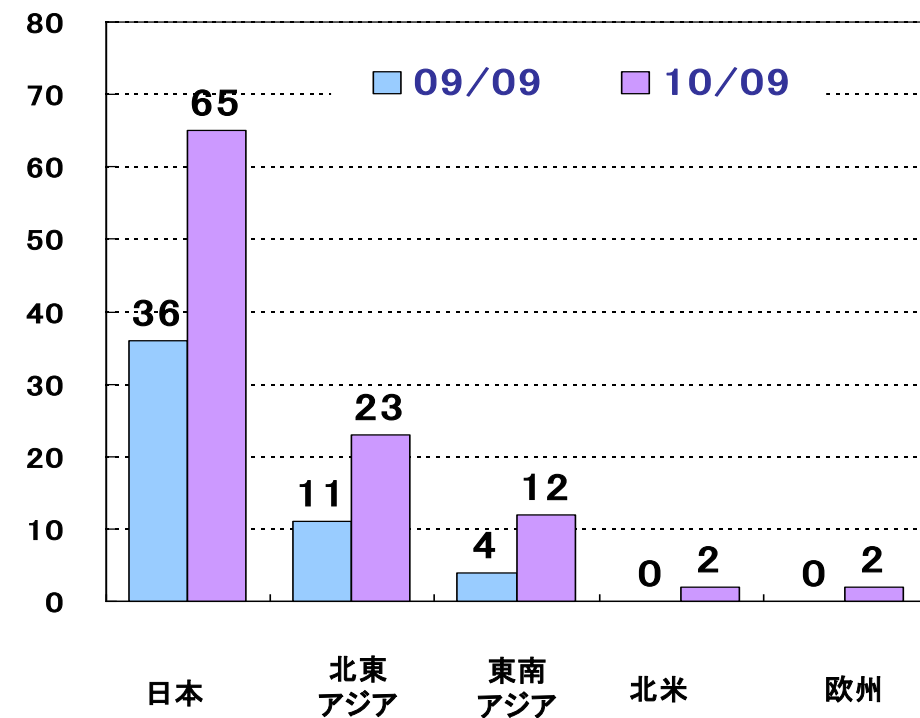
<セグメント別営業利益>

(単位:億円)

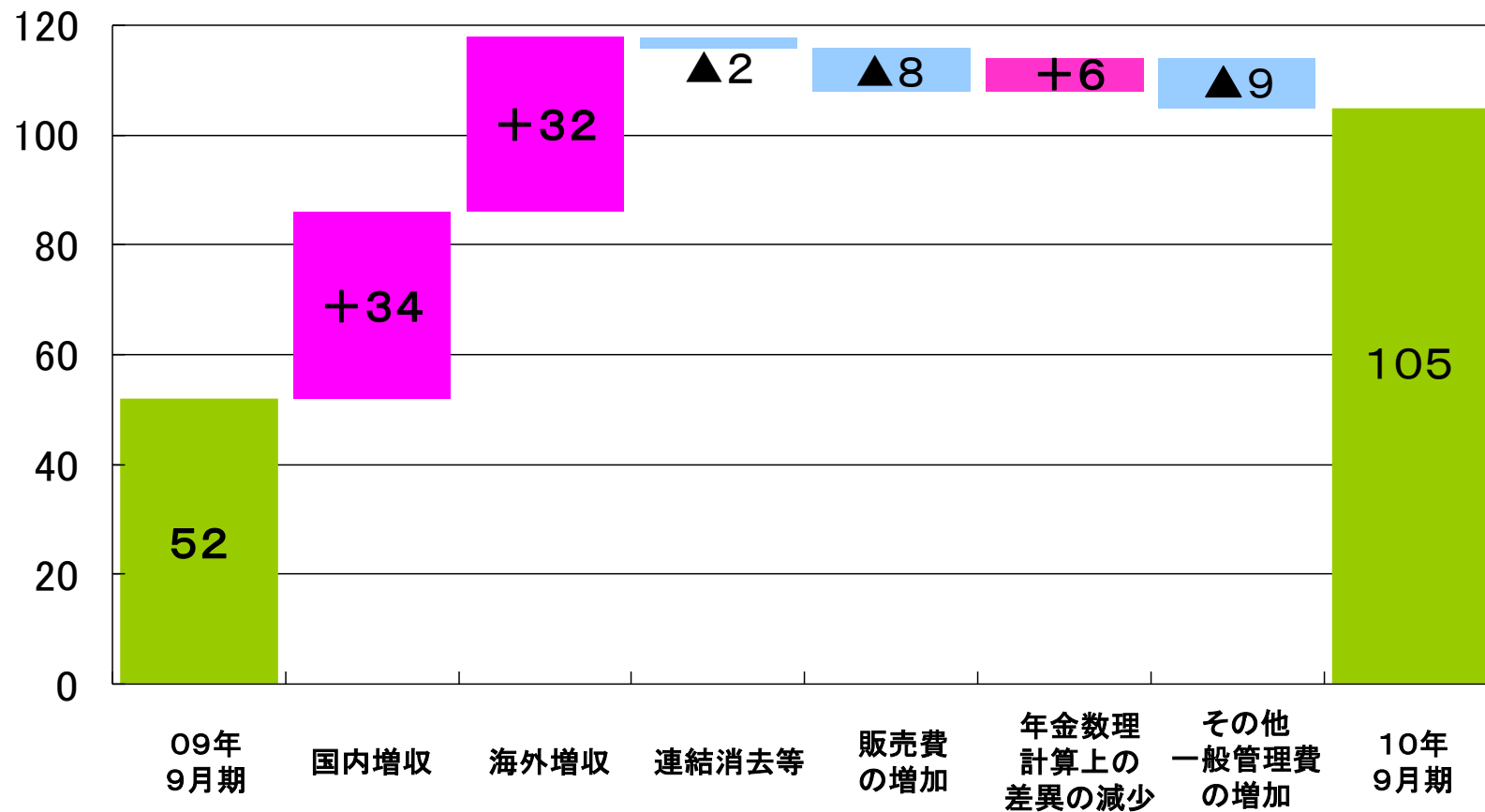


<所在地別営業利益>

(単位:億円)

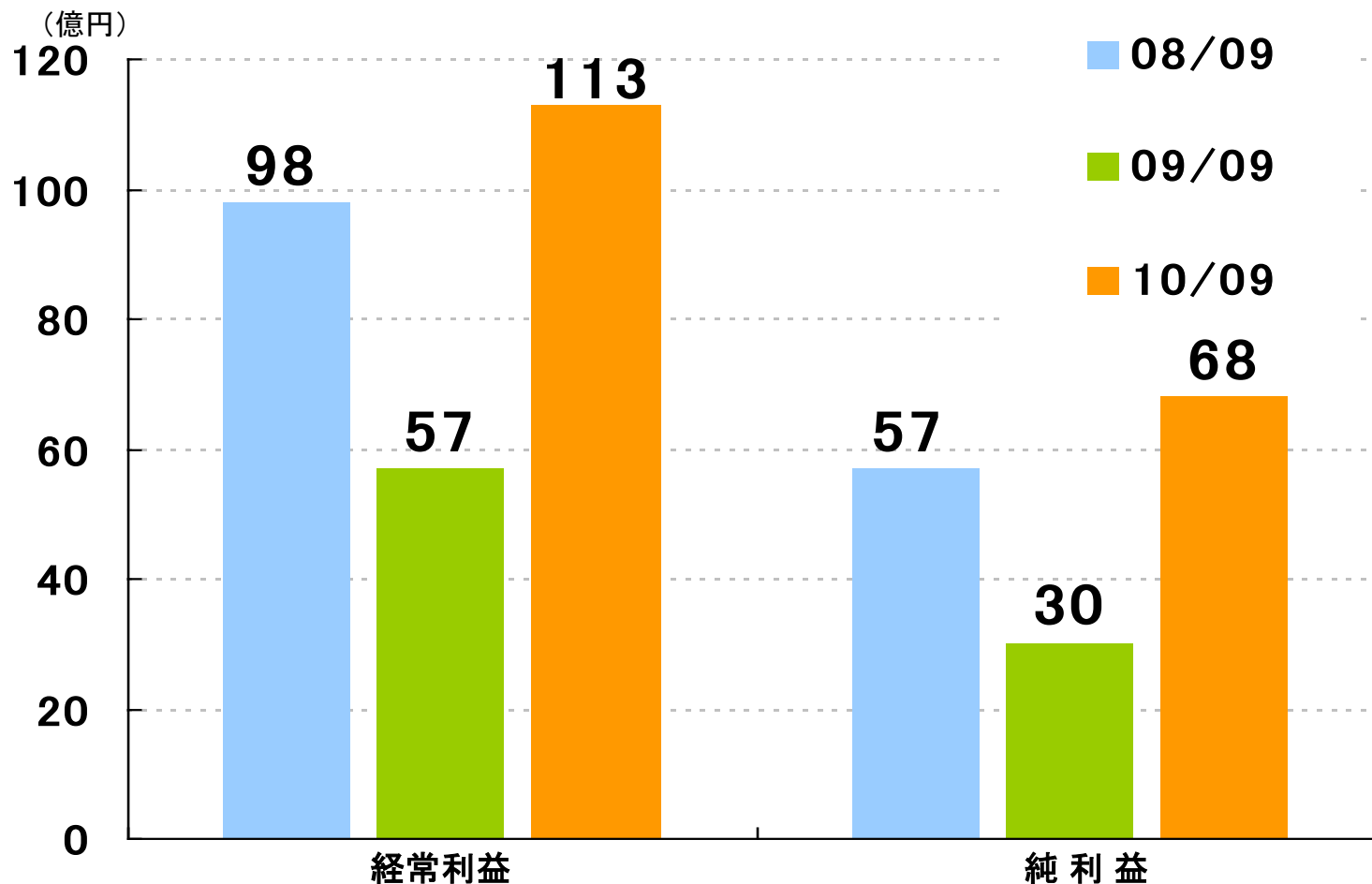


(億円)



(第2四半期累計) 經常利益 : 113億円 前年同期比196% 55億円増加

(第2四半期累計) 純利益 : 68億円 前年同期比221% 37億円増加



売上増加に伴い運転資金が増加

買掛債務は減少するも為替変動の影響を考慮すると増加

投資有価証券の減少(株価下落に伴う時価評価額の減少)

(単位:億円)

《資産》	10/09	10/03	増減	《負債及び純資産》	10/09	10/03	増減
現金及び預金	414	428	▲13	支払手形及び買掛金	1,070	1,086	▲16
受取手形及び売掛金	1,891	1,869	+21	短期借入金	145	104	+41
棚卸資産	363	310	+52	その他流動負債	191	180	+10
その他流動資産	90	69	+20	長期借入金	104	111	▲6
有形固定資産	391	403	▲11	退職給付引当金	71	68	+3
無形固定資産	27	25	+2	その他固定負債	85	102	▲17
投資有価証券	487	536	▲49	株主資本	1,911	1,855	+55
その他固定資産	36	37	▲0	(うち自己株式)	(▲54)	(▲54)	(▲0)
				評価・換算差額等	48	97	▲49
				新株予約権	2	2	—
				少数株主持分	72	71	+0
				純資産合計	2,033	2,027	+6
				(自己資本比率)	(52.9%)	(53.1%)	(▲0.2)
資産合計	3,701	3,680	+21	負債及び純資産合計	3,701	3,680	+21

売上回復に伴う運転資金の増加があるものの、税金等調整前利益 110億円の計上等により営業キャッシュ・フローは24億円の収入。

有形/無形固定資産・投資有価証券の取得等に伴い、投資活動によるキャッシュ・フローは58億円の支出。

(単位:億円)

	10/09	主な内訳	09/09
営業活動による キャッシュ・フロー	+24	税前利益 110億円 減価償却費 31億円 運転資金 ▲96億円 法人税等 ▲23億円	+ 254
投資活動による キャッシュ・フロー	▲58	有形固定資産の取得 ▲39億円 投資有価証券の取得 ▲5億円 無形固定資産の取得 ▲7億円	▲154
財務活動による キャッシュ・フロー	+25	短期借入金 38億円 配当金の支払 ▲11億円	▲94
現金及び 現金同等物の増減	▲15		+ 19
現金及び 現金同等物の期末残高	414		380

(単位:百万円)

	社名	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	純利益	前年同期比
単体	長瀬産業	231,581	117%	3,171	225%	4,584	153%
製造会社	ナガセケムテックス	15,743	128%	2,209	132%	1,315	140%
	東拓工業	3,493	106%	121	112%	123	120%
販売会社	ナガセプラスチック	13,305	184%	101	473%	87	-%
	長瀬カラーケミカル	7,642	121%	125	162%	99	189%
	ナガセケミカル	6,922	112%	112	124%	64	124%
海外	長瀬香港有限公司	26,562	103%	771	146%	646	150%
	ナガセタイランド	12,194	138%	560	257%	400	255%
	ナガセシンガポール	11,402	114%	216	602%	173	197%

2011年3月期業績見通し

(単位:億円)

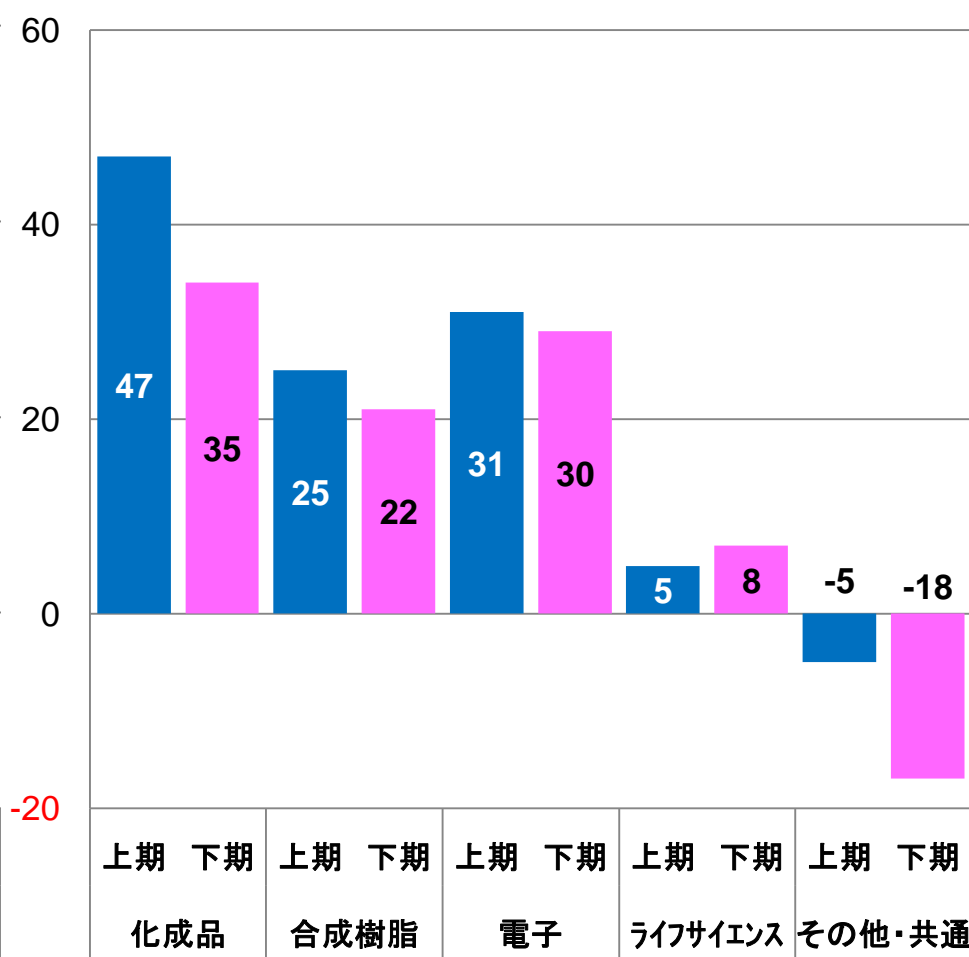
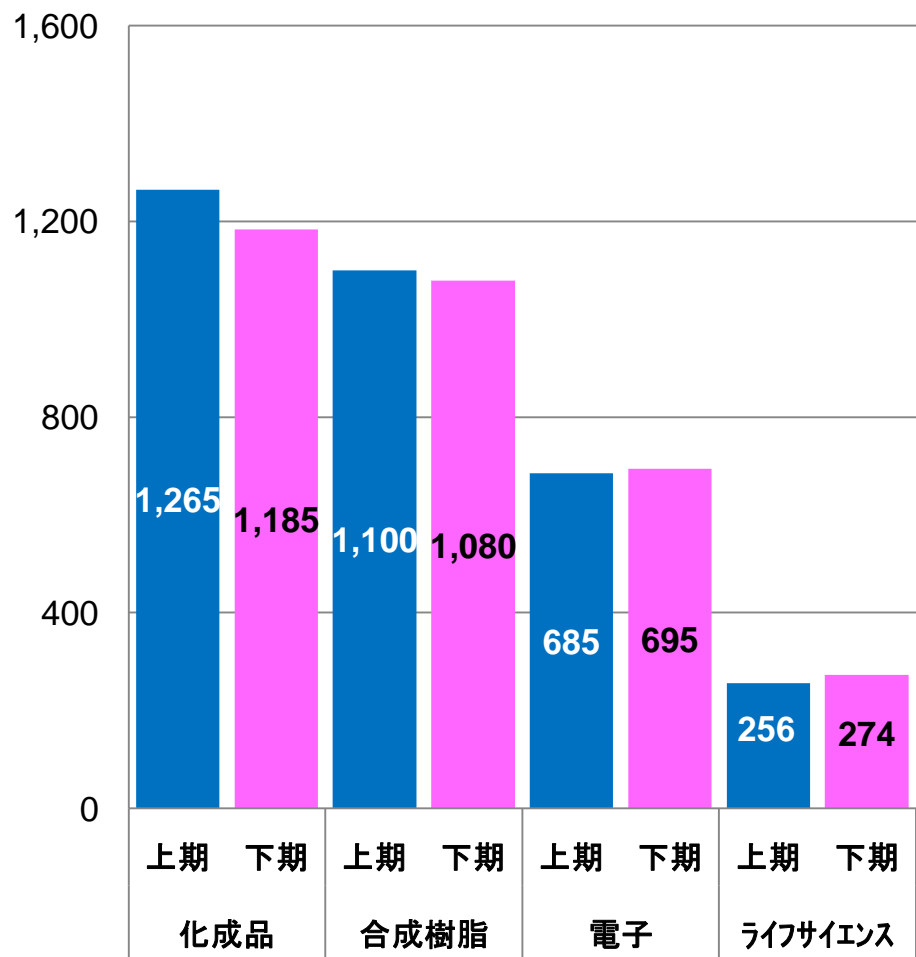
	上期				下期			通期			
	実績	増減	前年 同期比	期初 公表差	見通し	上期比	前年 同期比	見通し	増減	前期比	期初 公表差
売上高	3,313	+499	118%	+83	3,237	98%	100%	6,550	+510	108%	+80
売上総利益	370	+64	121%	+21	350	94%	100%	720	+65	110%	+22
営業利益	105	+52	200%	+30	75	71%	95%	180	+48	137%	+30
経常利益	113	+55	196%	+33	83	72%	92%	196	+54	133%	+34
当期純利益	68	+37	221%	+22	52	75%	116%	120	+44	159%	+25
1株当たり当期純利益	53円29銭							93円53銭			

《セグメント別 売上高 上下比較》

《セグメント別 営業利益 上下比較》

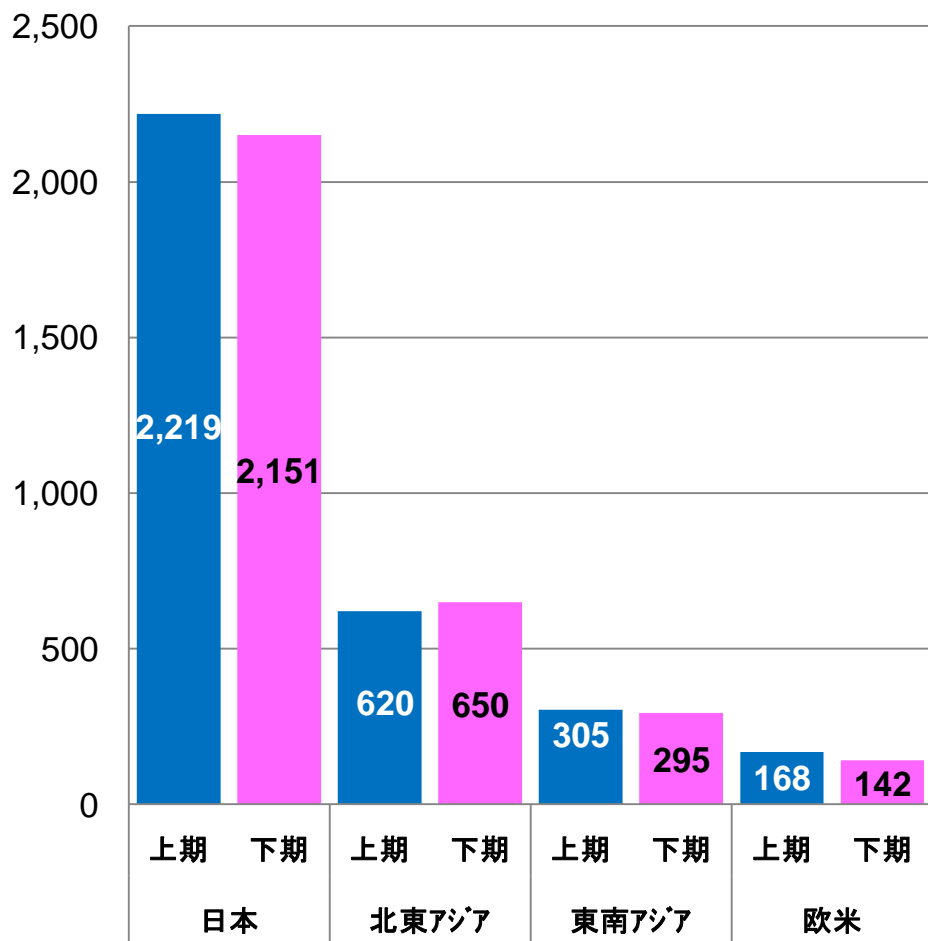
(単位:億円)

(単位:億円)



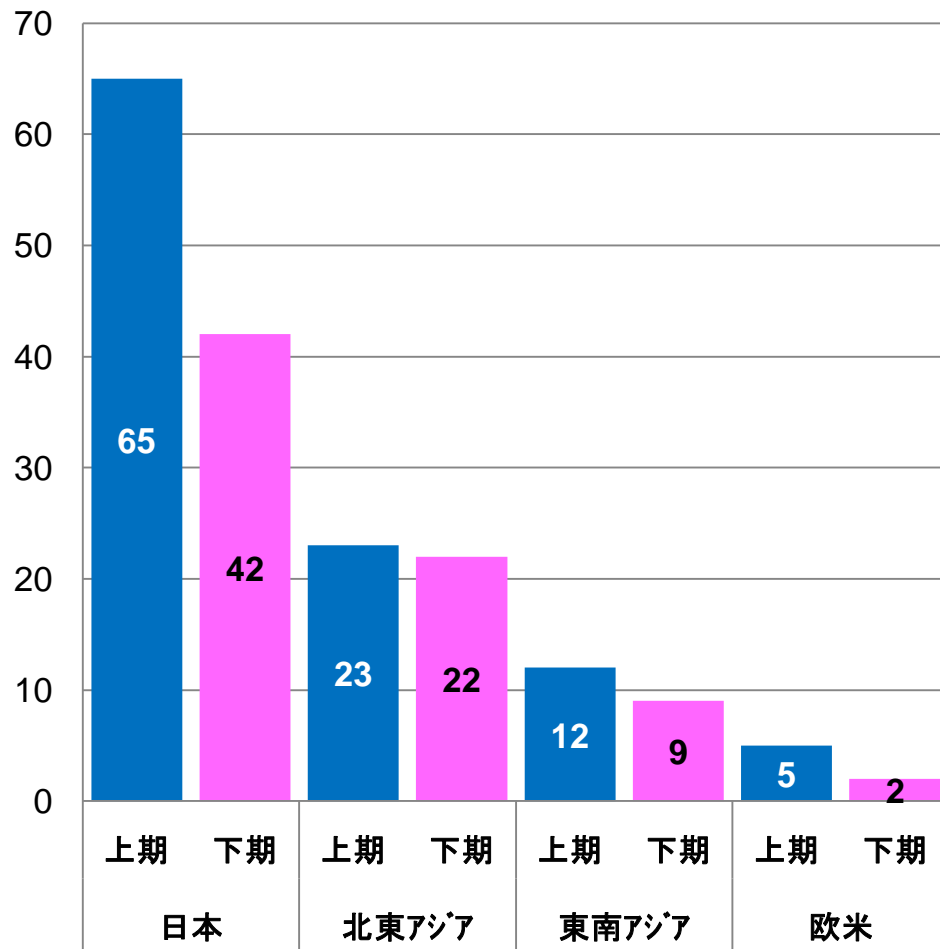
《所在地別 売上高 上下比較》

(単位:億円)



《所在地別 営業利益 上下比較》

(単位:億円)



中期経営計画「*CHANGE* 11」進捗

経営理念

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、
社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、
社員の福祉の向上と社会への貢献に寄与する

将来の目指す姿

（顧客に対して）

市場構造・環境の変化を先取りし、
独自のソリューションを提案すること
で顧客とともに発展する企業

（株主・投資家に対して）

技術を基盤として、強みを活かした
事業を中心に成長し価値を
高め続ける企業

（社員に対して）

事業を通じて、夢と理想を
実現する場を提供する企業

（社会に対して）

社会に貢献し、地球環境に
寄与する企業

基本戦略
事業と運営の質の向上

外部環境の
大きな変化

- ・企業倫理
- ・環境・資源問題

グループ内の
変化

- ・製造会社売上増
- ・海外売上比率高
- ・海外就労人員増

変わらなければいけないという
意識

経営理念
(誠実に正道を歩む)

1 事業の選択と集中

- 米国インディアナ州に自動車内装用ブロー成型樹脂部品・製品の製造販売を行う合併会社設立

2 環境・エネルギー関連技術の取り組み

- エナジーデバイス室新設

3 研究・開発・製造機能の強化

- 中国江蘇省常州市に高性能合成樹脂および中間体の受託生産事業を行う合併会社設立決定
- ナガセケムテックスの新生産棟の建設を決定

4 グローバル化の推進

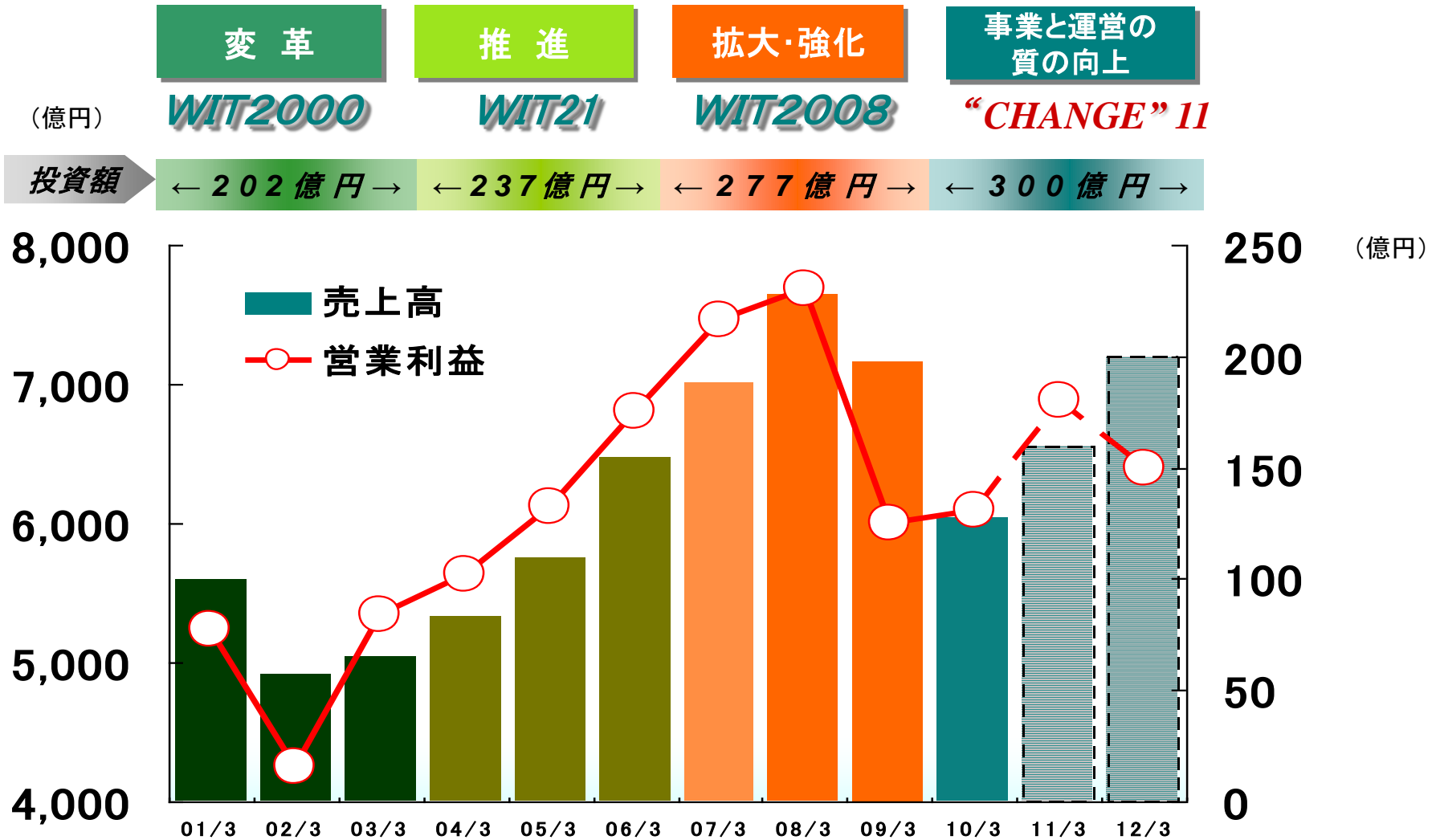
- メキシコに現地法人設立

5 リスクマネジメントの強化

- 化学品・製品の海外化学品法令への対応について、現地法人の安全貿易管理の整備完了

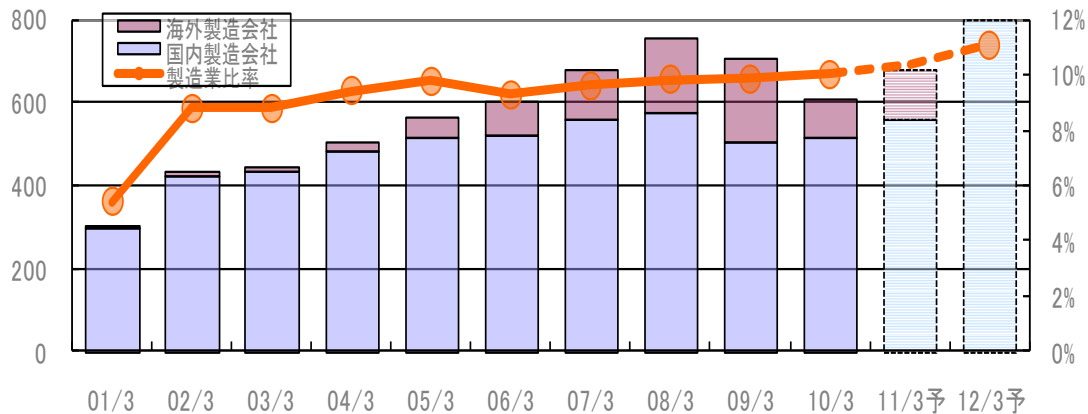
6 ダイバーシティの推進とワークライフバランスの支援

- 子育て支援企業の認定マーク「くるみん」を取得



(億円)

製造業比率(売上高)



投資計画(3年間)

300億円

環境・エネルギーを中心とした新規投資

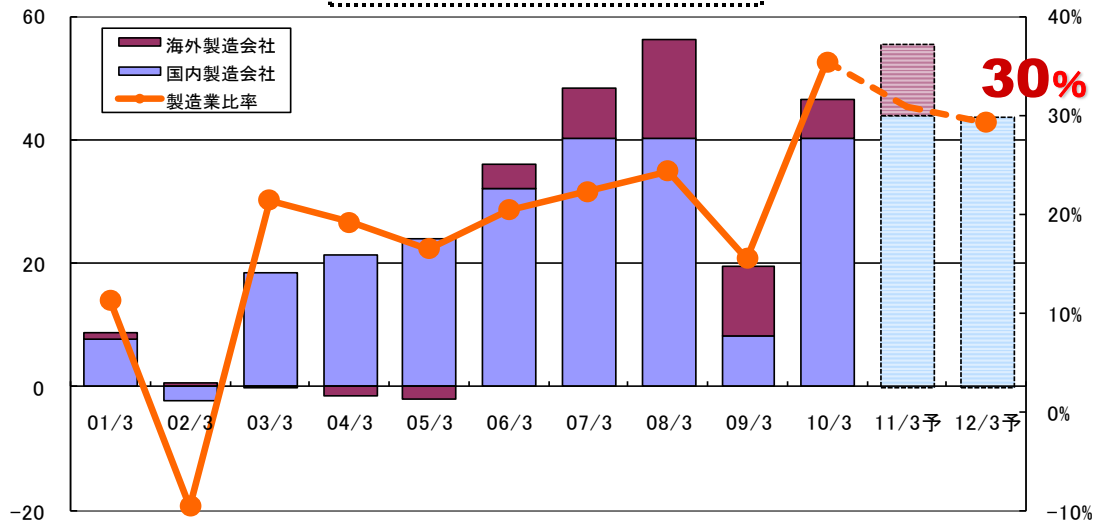
200億円

既存設備更新

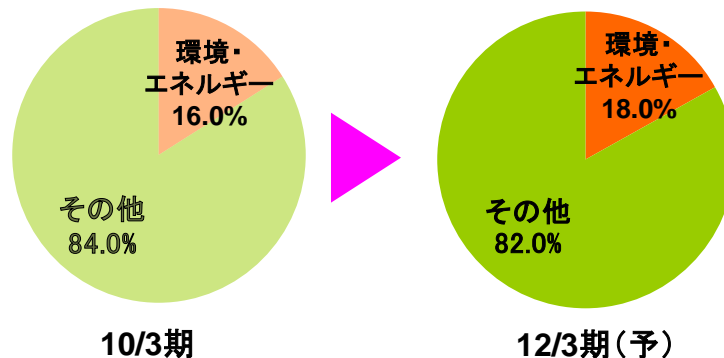
100億円

(億円)

製造業比率(営業利益)



環境・エネルギー関連売上高比率



酵素事業について

ナガセR&Dセンター長兼ナガセケムテックス

志水 修三

酵素は主に微生物から生産され、食品、工業、医薬等さまざまな分野に利用されています。酵素を利用したプロセスは省エネ、環境にやさしいことから、近年特に注目されています。

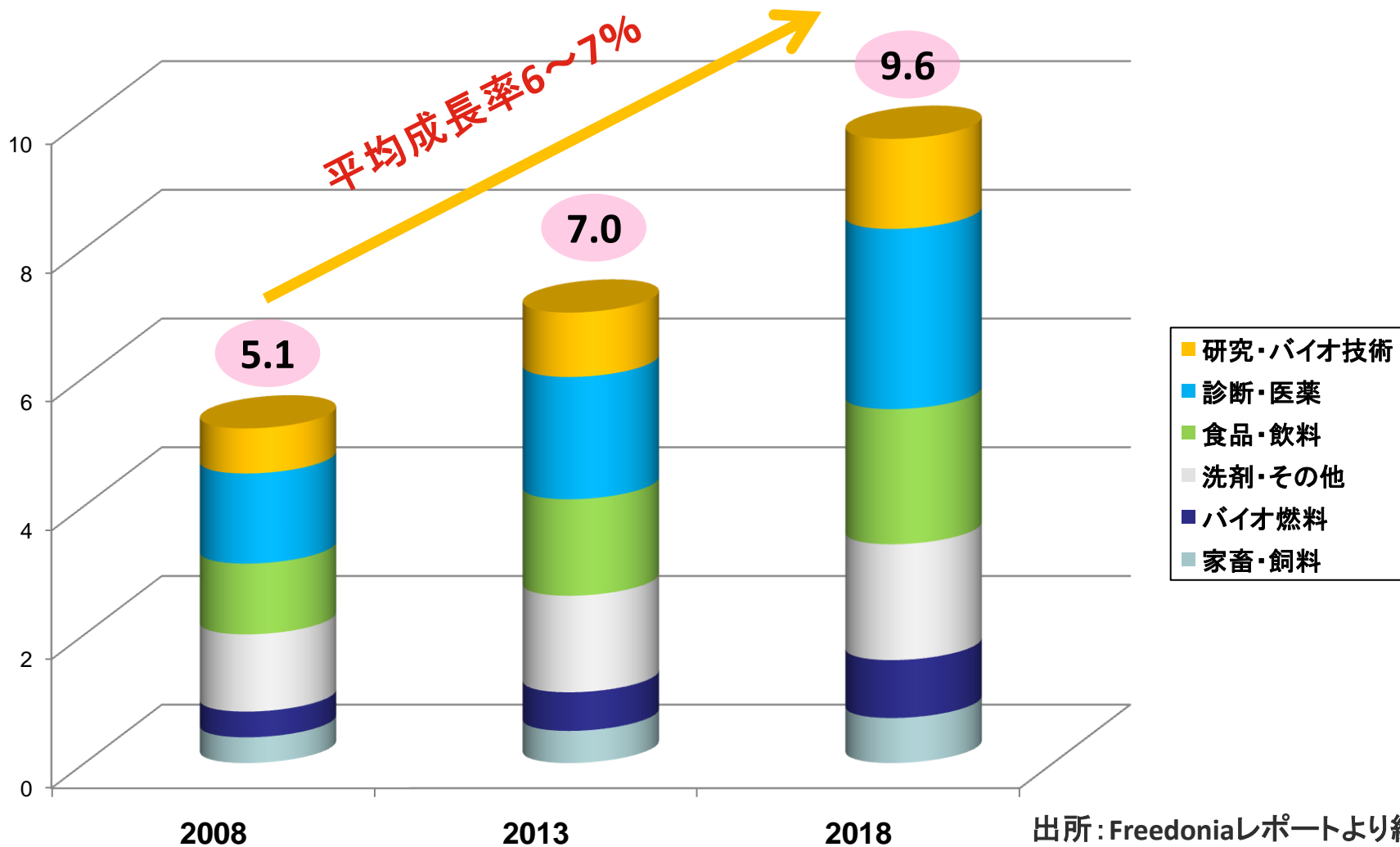


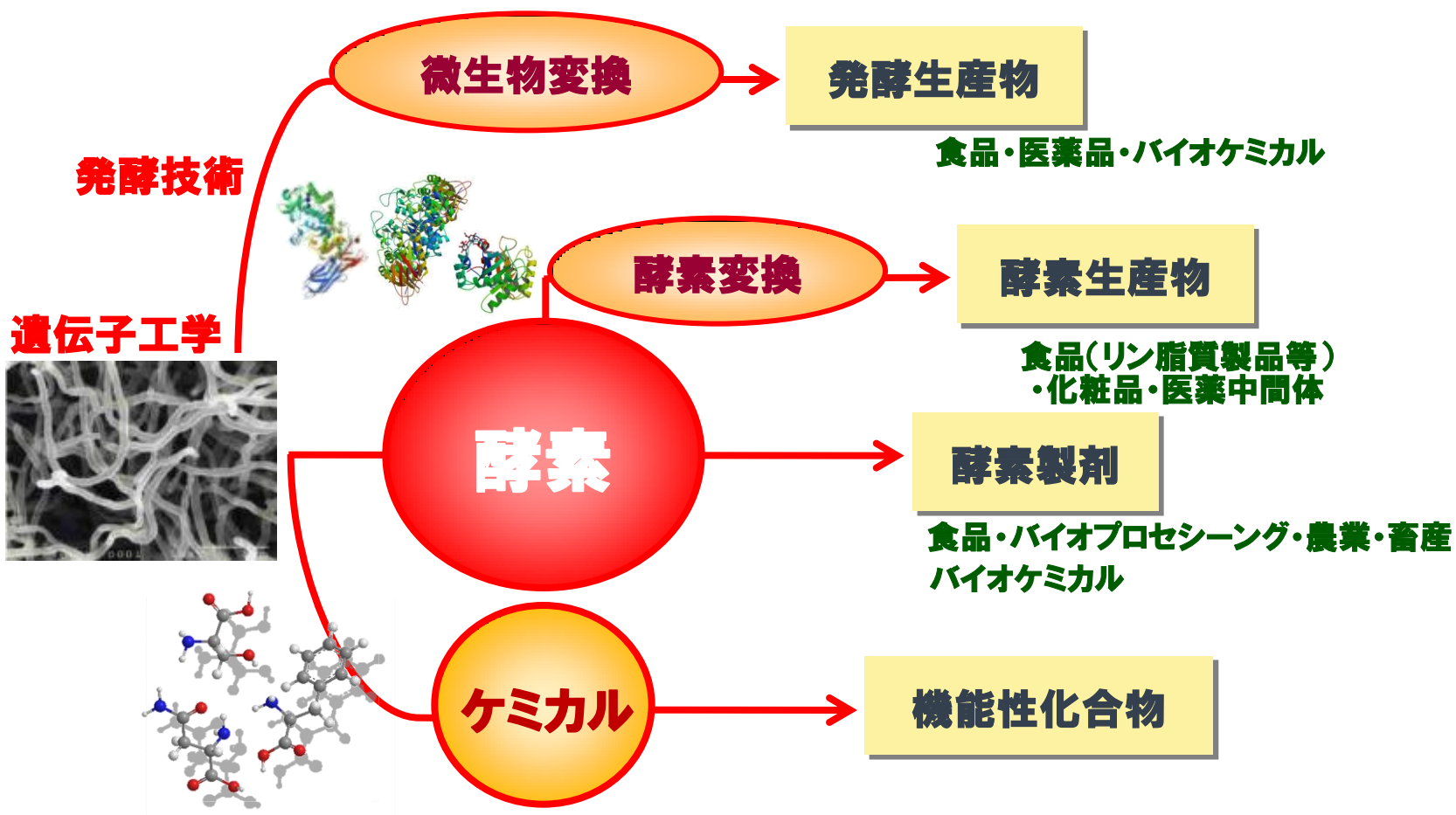
酵素は我々の生活を支えています。



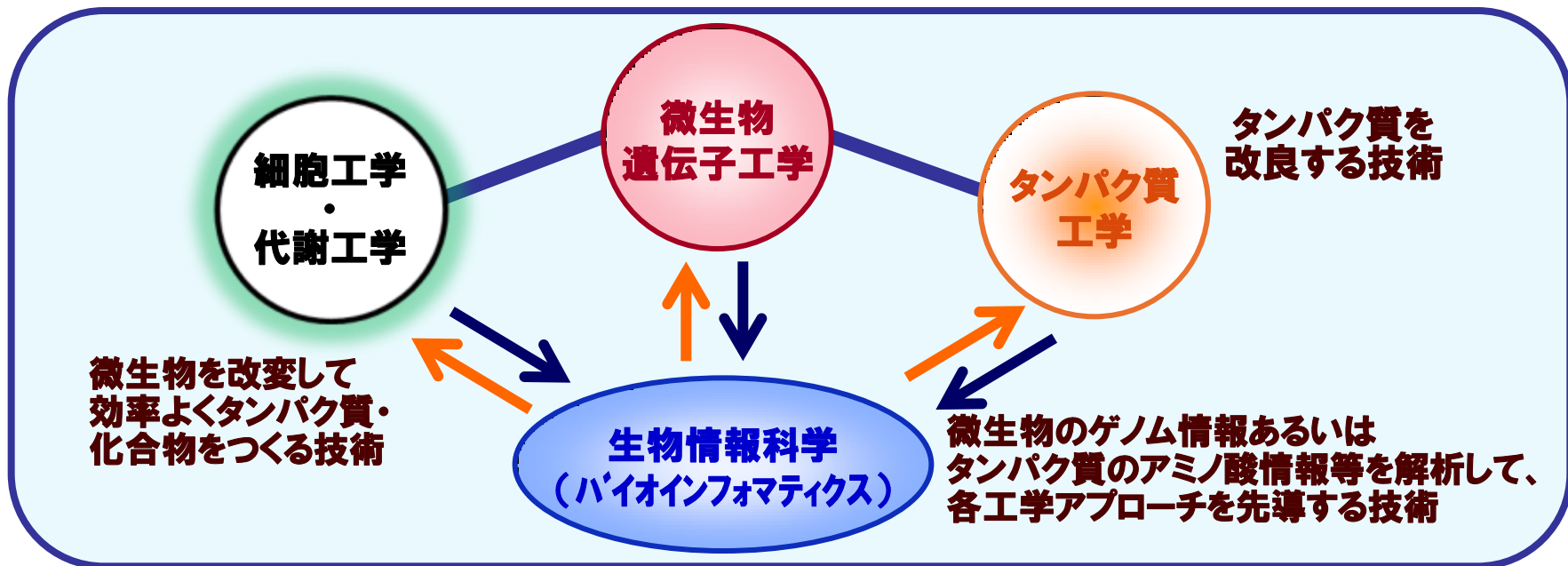
世界の酵素需要

(単位:10億ドル)





酵素事業はバイオの基盤



ナガセR&Dセンター
(神戸市)



ナガセケムテックス
(福知山工場)

開発期間

突然変異法
(戦後～)



5~10年

遺伝子組換え法
(1980～)



3~6年

ゲノム情報を用いた
遺伝子組換え法(今後～)



1~2年

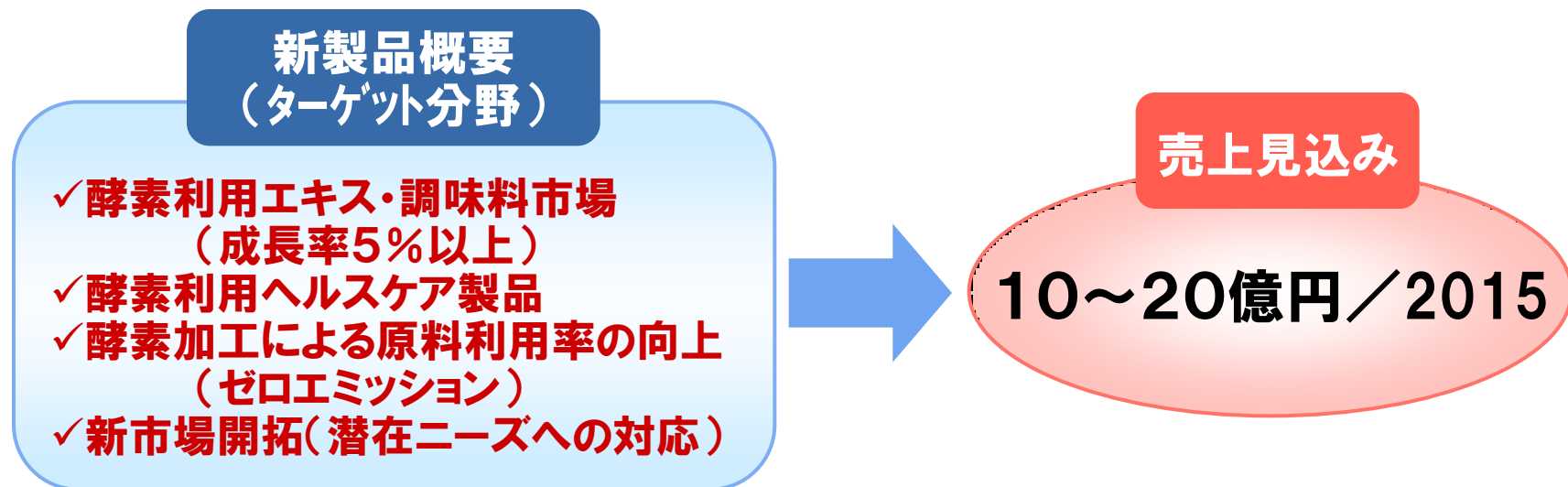
**ユニークな技術で
開発スピードが大幅短縮！**



年代	新製品数	代表製品	コメント
1939～1950	1	●アミラーゼ	創業・発酵技術
1951～1960	4	●アミラーゼ(液体培養) ●アルカリプロテアーゼ	深層液体発酵技術の パイオニア
1961～1970	0		酵素冬の時代
1971～1980	3	●グルコースイソメラーゼ(結晶化) ●耐熱 α アミラーゼ、カタラーゼ	国内初 異性化糖製造技術
1981～1990	5	●小麦 β アミラーゼ→大豆へ ●プロテアーゼ細粒、ウレアーゼASO	酵素生産技術の深耕
1991～2000	3	●精製パパイン ●プロトペクチナーゼ、ラクターゼ	技術サービスの時代
2000～2010	11	●PLD、PLA2 ●リン脂質6品目 ●キチナーゼ、キチナーゼB ●デナチームGEL	2003年放線菌技術確立 世界初 キチン分解酵素上市 世界初 耐熱性グルカン分解酵素開発上市
2011～2020	20	●デナチームCHL ●デナチームPER ●デナチームPEE ●デナチームPMR ●デナチームASL 等	新製品のラッシュ

新時代の始まり

➤ 2011年より開発酵素が次々上市予定



➤ 販売ターゲット: 世界の食品市場

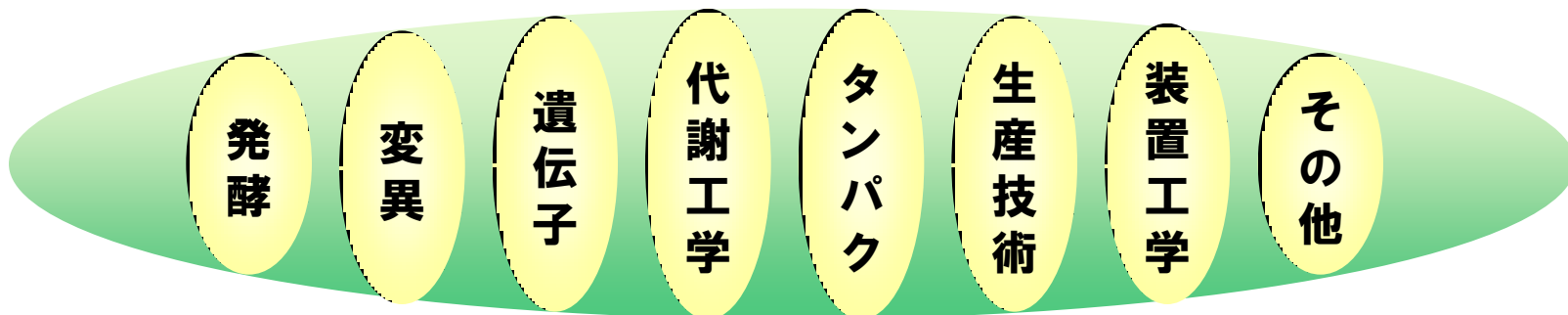
- ◆ 国内販売.....開発品の20~30%
- ◆ 海外販売.....開発品の70~80%

事業内容

バイオケミカル・バイオプロセス

食品・化粧品・医薬中間体・工業・農業畜産

技術

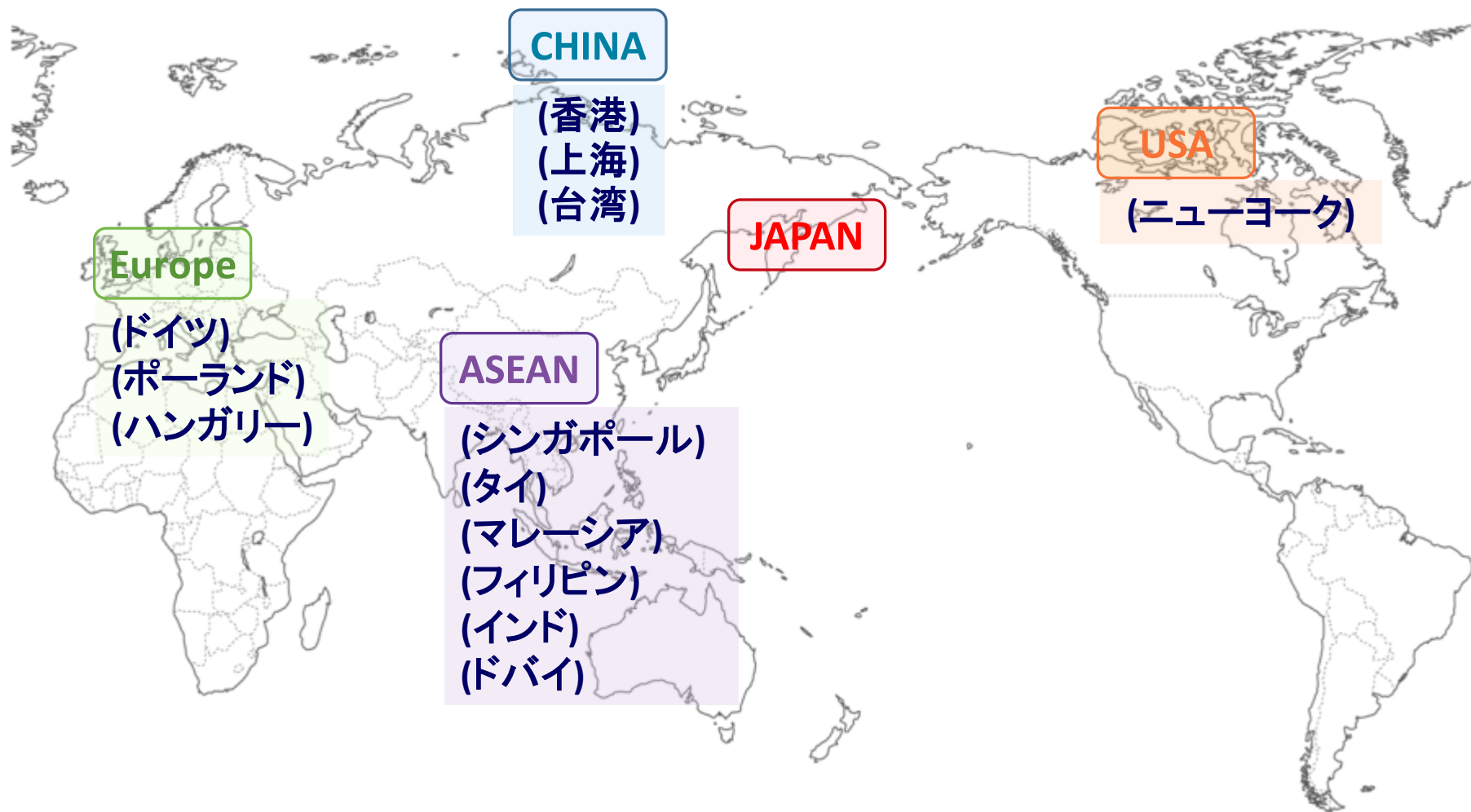


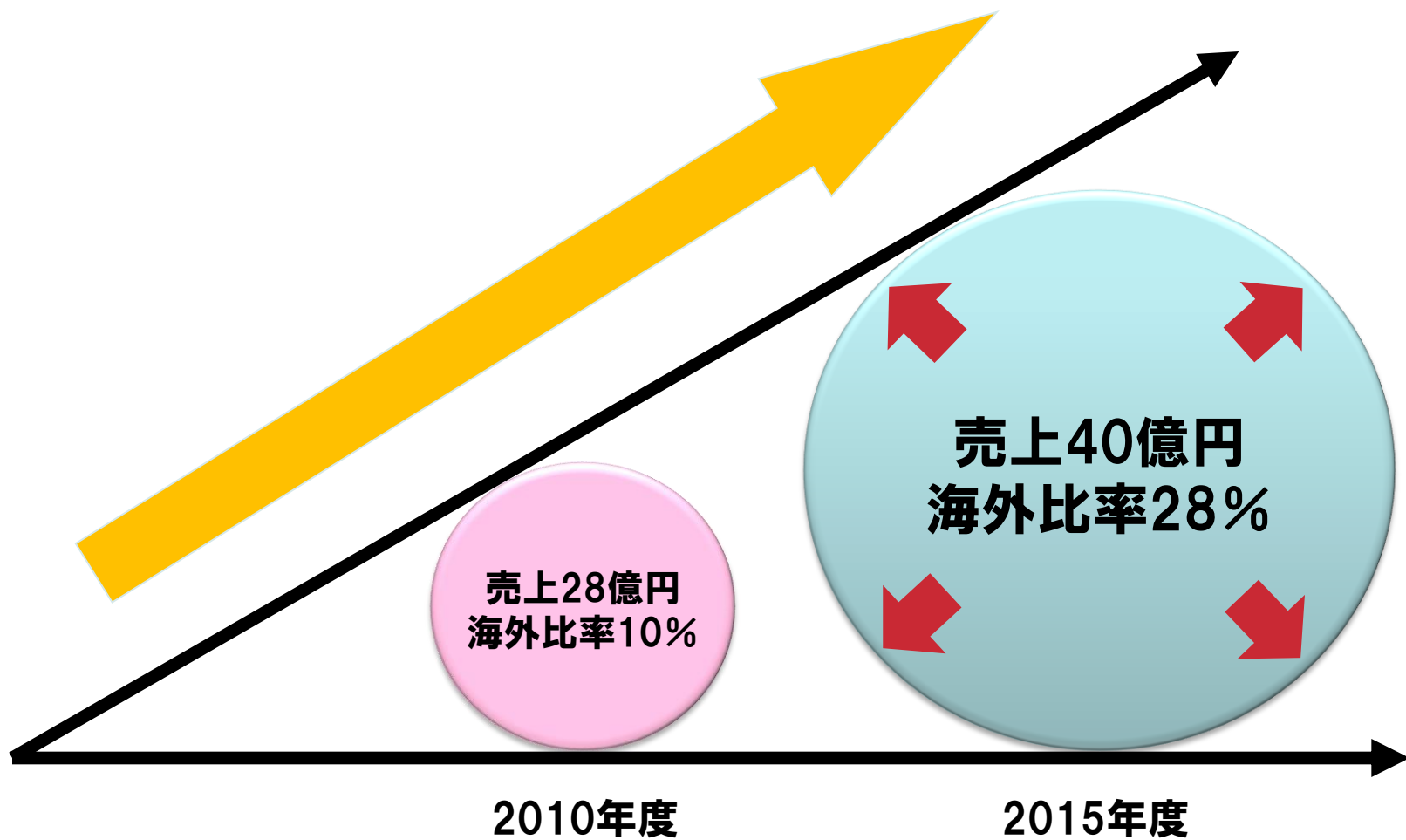
設備

I 期（新規酵素生産プラント 2012/7完成予定 20億円）

II 期（バイオケミカルパイロットプラント）

Global Enzyme Team





知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2010年11月16日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。